

カンボジア技術協力フォーラム打合せ 議事録（最終版）

1. 日時 平成 17 年 12 月 22 日 15:00～20:30
2. 場所 ニューオータニイン東京 4 階 高砂の間
3. 出席者(順不同・敬称略)

吉武進也、竹下功、堀川浩甫、高城重厚、小野健雄、萩野太郎、出崎太郎、藤井健史、佐藤正忠、加藤洋、長谷川孝道、橋本義平、本間勝、神戸良雄、恩凡香、秋山誠(事務局)
以上 16 名

4. 議事(資料 1)(司会 吉武進也団長)

4-1)カンボジア情報(資料無し、写真等回覧)(藤井)

カンボジア政府環境省他を訪問。有益な情報が得られた。関連情報詳細は藤井氏より報告資料が送付されたので本資料の(配布資料)に追加した(資料 16)。また、カンボジアでは、日本の環境省が推進しているエコアクション 21 の適用拡大を考えているとの情報がある。

4-2)グリーンテクノロジー第 3 次研修(第 1 期)報告(2005.11.30～12.9)

1)事前調査報告(2005.11.30～12.5)(資料 2)(神戸)

パワーポイントにより事前調査概要を報告した。今回の事前調査では、政府機関は 5 箇所(鉱工業エネルギー省 MIME、王立プノンペン大学 RUPP、カンボジアエンジニア協会 MIC、日本大使館、JICA 事務所)を訪問し開講式での挨拶等を依頼した。また、見学先 4 箇所(Hagar Soya、Protein Foods、CelAgrid、PC Service Provider)を訪問し、受講生見学時の対応をお願いした。なお、見学先の選定については、現状では、研修会講師の個人的情報で選定している。

2)農産物(食品)加工技術(2005.12.5～12.9)(受講者 22 名)

本講座の成果については極めて良好との研修生の評価がある。本研修シリーズは研修生自身及び職場に取って極めて重要であり、同国内の研修に使用したいとの意見もあった。また、今回の研修生の質は大変良いとの講師の評価がある。

(1)第 1 部(加藤洋講師)「カンボジアで生産される農作物(穀類即ち、米、コーン、キャッサバ、大豆等)の食品加工、及び生産管理、品質管理、衛生管理技術」等について講義した。また、研修時の調査必要な質問については、別途解答する。(資料 3)

(2)第 2 部(佐藤正忠講師)「食品製造上必要な日本の食品衛生法、食品添加物法令、日本農林規格、HACCP などの法・基準、食品工場の 3R 問題、産業廃棄物の処理と有効活用、バイオマス利用」等について講義した。(資料 4)

(3)見学会(2005.12.8)

Hagar Soya Milk(豆乳製造) カンボジアレベルで一応衛生的で整った工場であり、最近、緑茶飲料を上市して意欲的に拡販している。

Protein Foods(果実、水産物加工工場) 小家内工業で設備も充分ではないが、社長が業容拡大に意欲的である。製造現場に必要な温度測定機器(水銀 200 温度計、アナログセンサー付き温度計)を佐藤講師から送付する。

また、農業試験場を佐藤講師が訪問した。

3)環境に配慮したエネルギー開発技術(2005.12.5～12.9)(受講者 22 名)

本コースでは、自然エネルギーのカンボジアへの応用について、技術面とその実施に関する政策的な面をカバーし、研修生に基本的な知識と、フィージビリティスタディを実施できる技術を習得できることを目的とした。また、今回の研修生の質は大変高かった。

(1)第1部(長谷川孝道講師)「電源開発に関連する自然エネルギー開発(太陽光発電、風力発電、小水力発電及びそのハイブリッド化)の基礎技術とカンボジアへの応用」について講義した。

(2)第2部(高城重厚講師)「自然エネルギーが必要とされる背景である地球温暖化の問題、温暖化防止の仕組みである京都メカニズム及びバイオマス・エネルギー」について講義した。

(3)見学会

CelAgrid(Center for Livestock and Agriculture Development)は、UTAの基金で設立されたもので、桑等の木材チップの蒸し焼きによるバイオマス発電設備、牛、豚等の糞尿の発酵によるメタンガスによる燃料化が行われている。

(4)ワークショップの実施

ワークショップでは、1)地球温暖化の原因、2)その防止策、3)カンボジアの過程におけるCO₂排出量、4)実現可能なCDMプロジェクトは何かについて研修生に解答をお願いした。それぞれについて、1)森林面積の減少、2)森林破壊の防止、4)水力発電、バイオマス発電等の回答が得られている。(詳細は、資料6を参照のこと)

4-3)グリーンテクノロジー第3次研修(第2期)予定(橋本義平講師、本間勝講師)

橋本講師から、IT技術は横系的な技術と考えており、農業とか環境とかのアプリケーションをつくることで参加すると有効と考えているが、今回は個別の講座として参加するとの説明があった。

見学会は、第1回研修会で橋本氏の通訳をお願いしたPheang Sokveasna氏の会社PC Service Providerを見学する事に決定した。今回、開講式に出席された本間氏も同社を訪問されて、見学会をここで実施することが適正であることを確認された。

4-4)グリーンテクノロジー研修の今後の進め方

竹下専務から次の説明があった。

1)経済産業省としては、今までの通りのグリーンテクノロジーとしては続いて第4回目の研修会の開催は困難であり、衣替えが必要であるとの意向である。

2)対応策として、技術士会の独自の事業として継続し、経済産業省が支援する形であれば、グリーンテクノロジーとしても継続可能であるが、この場合技術士会で事業計画を作成し予算処置が必要であり、現実には実行が困難である。

3)経済産業省としては、技術士会の今後の対応として、次の二通りの考え方がある。

(1)今後の経済産業省の実施するODA計画等に成果がフィードバックできることの説明ができれば、継続の可能性はある。

(2)カンボジア以外の他の国、たとえばミャンマー等への人材育成としての支援を考えるのであれば可能性がある。

吉武団長からは、関係官庁の動向について次の説明があった。

1)アジア大洋州課の横田企画官が12/1にカンボジアで鉱工業エネルギー省のイット・プラン副大臣に会っておられ、そのときにカンボジア側から研修会継続の必要性を要望されている。また、横田企画官からは、成果と報告書及び今後の計画を早く提出することが要望されている。1/11の賀詞交換会に出席されるので、報告書の作成が急がれる。

2)経済産業省の技術協力課には、竹上嗣郎氏が総括課長補佐に就任されたが、今までの経緯について説明してほしいとの要望がある。1/11の賀詞交換会には出席される予定である。

3)同課の新任の研修・AOTS担当の清水正巳課長補佐からも1/11の賀詞交換会に出席したいとのメールをもらっている。

今後の進め方については、具体的な結論はでていないが、関係官庁への対応のため、報告書及び成果の作成を急ぐことになった。また、竹下専務からは、本研修会は、日本技術士会としても、公

益事業として重視しており、是非継続したいとの意向が述べられた。

4-5)カンボジア第3回研修会報告書の作成及び今後の計画

経済産業省への報告書及び今後の計画書の作成並びに技術士会機関紙月刊「技術士」原稿については、吉武責任者より高城氏に依頼し快諾された。特に、経済産業省宛の報告書及び今後の計画書の早急な作成をお願いした。

4-6)ミャンマーに対する技術支援計画について(資料13、資料14(配布なし))

今までのミャンマー関連報告書が配布(資料14)された。また、堀川氏の調査結果(資料15)が口頭で説明された。また、吉武団長より、ミャンマーの日本大使館には、経済産業省の水野市郎氏が出向されており、カンボジアよりも実施しやすいのではないかと経済産業省の見解がある。また、ミャンマーは、現在は軍事政下にあるが、研修関連講座は従来も実施しており、問題ないのではないかと説明があった。

5.懇親会(13名出席)

会議終了後、13名の出席者(竹下、藤井、加藤3氏は別件のため欠席)により懇親会を開催した。まず最初に吉武フォーラム責任者の挨拶、小野フォーラム幹事の乾杯の音頭で祝宴を開始し、会席料理と飲み放題のアルコール飲料等を賞味しつつ、今回の研修会の成果、フォーラムの将来計画等について活発な議論を交歓し、最後に堀川阪大名誉教授の閉会の挨拶で今年度の研修会打ち上げの懇親会を終了した。

(配布資料)

(資料1)カンボジア技術協力フォーラム打合せ案内と議題

(資料2)第3回研修会「The 3rd training Course on Green Technology」事前調査(神戸良雄)

(資料3)第3回カンボジア グリンテクノロジーセミナー

Part1 農産物加工(Foods Processing Technology)実施報告(加藤洋)

(資料4)第3回 Cambodia Green Technology Seminar に当たって(佐藤正忠)

(資料5)「第3回カンボジアグリーンテクノロジー技術研修」実施報告書

「環境に配慮したエネルギー開発」担当(長谷川考道)

(資料6)カンボジア・第3次グリーンテクノロジー研修報告

環境に配慮したエネルギー開発技術(高城重厚)

(資料7)海外出張報告 第3次カンボジア技術研修(第1期)(秋山誠)

(資料8)開講式出席者リスト

(資料9)開講式挨拶(吉武進也団長、日本大使館参事官 地神一美様、JICAカンボジア事務所次長 鶴飼彦行様、AOTSアセアン・南アジア統括所長 吉原秀男様、鉱工業エネルギー省副大臣 イット・プラン様、王立プノンペン大学学長 ラウ・チュ・イウ様、カンボジアエンジニア協会 ミア・ソッコム様)

(資料10)ラクスメイカンプチア新聞記事(クメール語及び日本語訳文)(2005.12.9付)

(資料11)フジサンケイビジネスアイ記事(吉武団長インタビュー記事)(平成17年12月17日掲載)

(資料12)カンボジア技術協力フォーラム収支記録(小野幹事作成)

(資料13)ミャンマー経済視察団報告書(平成10年、平成11年報告)

(資料14)堀川氏ミャンマー支援のための調査資料(未配布)

(資料15)カンボジア第3回研修会DVD資料

(資料16)第3次グリーンテクノロジー研修随同行記録

(神戸良雄 記)